

KG GO Global!

世界に羽ばたく関学をめざして！



開学以来125年にわたり、関学が「世界市民の育成」に力を注いできたことをご存じでしょうか？地道に続けて来た国際教育が高く評価され、2014年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」のタイプB（グローバル化牽引型）指定校に採択されました。タイプBには全国93大学が申請し、採択されたのは24大学。関西の私立大学ではわずか2校という狭き門をくぐり抜けての栄誉でした。

SGU (Super Global University) に指定されるほどの国際教育の取り組みの実態を知りたくて、その推進者である神余隆博国際連携機構長・副学長と丸楠恭国際学部長にインタビューを申し込みました。神戸三田キャンパスと理工学部、総合政策学部の紹介に続く第2弾として、西宮上ヶ原キャンパスでのグローバル化の取り組みを、同窓の皆様にもっと知って頂けるよう、巻頭特集を企画しました。関学はどんどん進化していきます。ワクワク、ドキドキの進化の様子を紹介します。



国際連携機構は、関学における国際交流、国際教育と日本語教育の発展を目的とし、2013年に設置された。その機構長でもある神余副学長が熱を込めて語る、国連をめざす人のための日本初の独自のプログラムによるチャレンジ構想。

関西学院で世界市民への第一歩を

《国際連携機構》

グローバル・アカデミック・ポート構想3つの柱

1 ダブルチャレンジ制度の推奨

「ダブルチャレンジ制度」とは、全学生に所属学部や専攻での学び（ホームチャレンジ）に加えて、もう一つの学び（アウェイチャレンジ）への挑戦を推奨するもの。これらを通じて、「主体性」「タフネス」「多様性への理解」を養う。2019年から全学生に課す予定です。

●アウェイチャレンジ インターナショナルプログラム

日本を出て世界を知ろう！

留学や海外の学生と交流するプログラムに加え、海外インターンシップ、国連ユースボランティアなどの実践的な

学びを通して、英語力やリーダーシップ、異文化コミュニケーション能力など、国際的に活躍するために求められる能力を養います。

全学生の半数が海外へ！

留学制度をさらに充実させ、海外協定校への派遣学生数日本一をめざします。

現在の1360人から2023年度には年間2500人の派遣を目標！

●副専攻プログラム

所属学部を出て多分野を学ぼう！

自分が所属する学部の学びとは異なる学問分野を「副専攻」として履修

し、違う分野を学ぶことによって、更に学習理解の幅を広げることが目的としたプログラムです。さらに、意欲のある学生に対しては一定の条件を満たせば、最短4年間で2学部の学位取得が可能になります。

●ハンズオン・ラーニング・プログラム キャンパスを出て

実社会を経験しよう！

フィールドワークやワークショップ、インターンシップなど、学生がキャンパスの外で活動する多様な機会を提供。実践的な学びを通して、社会で必要な能力を育みます。



2 国連・国際機関等へのゲートウェイ

関西学院大学は約20年前から、国連本部を訪問する「国連セミナー」、学生を途上国にある国連機関に派遣する「国連ユースボランティア」や、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）駐日事務所の要請に基づく難民学生の

受け入れなど、国際貢献につながる取り組みを行っています。「グローバル・アカデミック・ポート」構想では、これまでの取り組みをさらに強化・拡充。国連などの国際機関で活躍できる人材を育成するため、**今年の4月より、大学副**



明石康教授

関学×国連

国連・国際機関職員・外交官などを育成する教育プログラム・コースがスタート。明石康・元国連事務次長が招聘客員教授に就任。

着実なステップで、国際機関キャリアに挑める プログラム構成

キャリア	2015 10.24 開設	外部機関と連携した新設センターがキャリア支援	
		関学国際機関人事センター (外務省と連携)	国連グローバルコンパクト支援関学センター (国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパンと連携)
修士	2017 新設 予定	大学院副専攻 国連・外交コース	
		複数研究科が共同、 各自の専門に副専攻	実務家教員登用、 実践的演習中心
学部	2017 新設 予定	実践型“世界市民” 育成プログラム <small>UNV、JICA、ICRC（赤十字国際委員会）等で実践</small>	副専攻 国連・外交プログラム <small>体系的な知識、経験</small>
		国連本部での学生研修（1997～）、アジア初の国連ユースボランティア学生派遣（2004～）、UNHCRと連携した難民入試（2007～）、「国連ユースボランティア」派遣日本訓練センター（2013～）	
高校等	明石塾	一貫教育、高大連携で早い段階から意識付け	
		スーパーグローバルハイスクール指定校・SGH※アソシエイト校	その他

※SGH:文部科学省スーパーグローバルハイスクール事業

専攻「国連・外交プログラム」、大学院副専攻「国連・外交コース」をスタートさせます。

このプログラムは、通常の学部や研究科における学びに加え、国際機関で働くために欠かせない語学力や知識、スキルなどの習得を図るもの。学部生・大学院生は自分の専攻と並行して履修します。

教授陣には、元国連事務次長の明石康招聘客員教授をはじめ、元ドイツ大使・国連日本政府代表部大使の神余隆博副学長、元国連アジア太平洋経済社会委員会事務局次長の村田俊一総合政策学部教授、元国連児童基金カザフスタン事務所代表の久木田純招聘客員教授、前駐日カナダ大使のマッケンジー・クラグストン特別任期制教授など、第一線で活躍してきた実務経験豊富な教員が指導に当たります。

「どうすれば国連職員や外交官になれるか？今回のプログラムはその要望に応えたもので、日本では初めての設



神余隆博副学長

また、留学生とともに学ぶプログラムを充実させ、さらに、英語で行う授業を増やし、留学生と日本人学生が同じ授業を受ける環境を整備していきます。英語で専門分野を学ぶことを通して、より実践的な語学力と異文化コミュニケーション能力を育みます。

3 グローバル キャンパス

国連ユースボランティアへの学生派遣など、長年国連と連携してきた関西学院大学だからこそできることだと自負しています。」と話すのは、自ら教壇にも立つ神余副学長です。

さらに、高校生を対象に国際機関等で働く意義を学ぶ「関西学院世界市民明石塾」も2016年度から開催。高校から学部、修士、キャリアと一貫した流れで、国際機関で働きたい人の挑戦を支援します。

関西学院大学では、これまで数多くの留学生を受け入れ、日本人学生と外国人学生が共に学ぶグローバルキャンパスを実現してきました。2023年度には、留学生受け入れ数を現在の1000人から1500人に増やし、キャンパスで国際交流が可能な環境を整備する予定です。

国際学部の学生たち

丸楠学部長の大変熱い国際学部の成り立ちから、学部の内容を伺い、関学の偏差値を押し上げてくれている学生たちの様子を知りたくなった。どんな感じで、外国人学生と接しているのか、国際学部に来たことをどんなふうに思っているのか、自然な感じで聞いてみたかった。そこで、今流行りのアポなしで、国際色豊かな学生たちの集うというグローバルラウンジに出かけてみた。

そこでは、学生たちが実に自然に勉強したり、おしゃべりをしたり、トランプをしていたり…もうすぐ試験というのに、なかなか余裕の様子がみられた。

その中で4、5人の外国人学生(シンガポール、アメリカ)とグループで話をしている、爽やかなイケメン男子がいたので、話をきいてみた。東君という広島出身の彼は、「どうしてここを選んだの?」との問いに「国際交流にも興味があったし、自分に合った高度なプログラムが学べるから」とのこと。「どういところが気に入ってますか?」と聞くと「1年から自由に好きな学科を選ぶことができる所。色んな人がいる所」と答えてくれた。

可愛い女の子がおしゃべりをしていたので、少し話を聞いた。Friederikeさんは、オーストリアからの留学生。日本語もなかなか上手。どんなところがいいですか?と聞くと「日本語の授業も少人数でわかりやすい。それと、ホストファミリーの制度があるので有難い。今のホストファミリーは最高!色んな事を教えてくれるし」と答えてくれた。岡山出身の真菜さんと仲良さそうにおしゃべりをしていた。



国際学部の理念が、学生の中にもうまく生きているようで、満足して帰った。(T)



《国際学部》

多文化共生能力を養い 国際舞台で力を発揮できる 人材育成をめざす

関学に国際学部があることをご存知でしたか?存在は知っていても内容は知らない方も多いのでは?関学の偏差値を大いに高めている国際学部のどこが凄いのか丸楠学部長に伺ってきました。

21世紀に入って以降、日本企業においてグローバル化する社会における競争力を身につけた人材の養成が叫ばれ、大学においてもこのような動きへの対応が求められるようになりまし。こうした流れを受け、当時神戸三田キャンパスに先行されていた西宮上ヶ原キャンパスのグローバル化を担う学部として、2010年に開学した国際学部は、国際性と豊かな人間性を兼ね備えた世界市民の育成を目的としています。

重点的な外国語教育と全ての学生が参加する海外留学を通して、高い言語能力とコミュニケーション能力を身

に付けます。多文化共生能力を養うことで、ビジネス界はもちろん、国際貢献活動など、国際舞台で真の実力を発揮する人材の育成を図ります。

いつでもどこでも誰にでも
いい仕事をするための
骨格づくり

具体的には、1年次の少人数の演習授業を重視し、論理的に物事を考え、それを言語で表現する能力の訓練をしっかりとする。言語教育を重視し、3、4年次に総合的に高めていきます。

また、国際を切り口に、2コース3領域を総合的に学べるカリキュラムを整え、日本と密接な関係を持つ北米・アジア地域について、「文化・言語」「社会・ガバナンス」「経済・経営」の3つの学問領域を軸として、人文・社会科学における広範な内容を提供し、それぞれの関心

学問領域(学問分野)

文化・言語領域

文化論
言語学
宗教学

社会・ガバナンス領域

社会論
政治と外交
国際関係論
国際法

経済・経営領域

経済学
経営学
会計学

研究コース
主な
研究対象領域

北米研究コース

アメリカ・カナダ

アジア研究コース

中国、アジアNIEs、ASEAN、オセアニア

海外留学

演習、キリスト教学、外国語



約3〜7カ月の短期留学、中期留学、約1年の長期留学のいずれかに参加します。留学に必要な費用に関しては、学部独自

「日本人学生も、いろいろなタイプの面白い人材に来てほしいということ」で、多彩な入試形態を採っています」と丸楠学部長。例えば、スーパードロバールハイスクール指定校に在籍する高校生に関しては、デイスカッション形式での入試を国際学部独自で実施しています。さまざまな個性が集まる中で、学生たちは他を認めながら、自分の個性を磨いていくのです。

今後の課題は留学生の多様化。「もっと多くの国から来てもらうためにはカリキュラムの見直しも必要かもしれません」と丸楠学部長は語ります。これからも関西学院大学のグローバル化の先陣を切り、真の国際人を育成していきます。



丸楠恭一国際学部長

に於じて学べるようにしています。学部段階での専門性の深さより、卒業後に専門分野を学ぶための資質を育てることに重点を置いています。

「国際性とは平たく言えば、いつでも、どこでも、誰とでもいい仕事をするための骨格。そのためには、広くさまざま

まな知識を得る必要があるのです。また、外国人留学生が多くいる国際学部は小さな国際社会であり、国際性を育むには最適の環境です」と丸楠恭一国際学部長は言います。

外国語教育に関しては、コミュニケーションの道具として使える2言語の習得を目指します。また、英語で行う授業を多数実施。4年間の重点的な外国語教育で、国際社会で通用する実践的な言語運用能力を養います。

さらに、原則として全員に海外留学が課せられており、学生たちは約1カ月の短期留学、

約3〜7カ月の中期留学、約1年の長期留学のいずれかに参加します。留学に必要な費用に関しては、学部独自

学生数は1学年約3000人。そのうち3分の1が留学生や帰国子女など海外経験がある人です。

「日本人学生も、いろいろなタイプの面白い人材に来てほしいということ

で、多彩な入試形態を採っています」と丸楠学部長。例えば、スーパードロバ

ルハイスクール指定校に在籍する高校生に関しては、デイスカッション形式

での入試を国際学部独自で実施していま

す。さまざまな個性が集まる中で、学

生たちは他を認めながら、自分の個性

を磨いていくのです。

今後の課題は留学生の多様化。「もっ

と多くの国から来てもらうためにはカ

リキュラムの見直しも必要かもしれません」と丸楠学部長は語ります。これからも関西学院大学のグローバル化の先陣を切り、真の国際人を育成していきます。

村田学長が同窓会でのご挨拶の中で

誇らしげに、SGU指定校を獲得したと

言われていたが、正直どんなにすごいこ

とか実感が湧かなかった。今回、このイン

タビューを通じて、指定校を得るまでの

地道な努力と壮大なプログラム実現の

道のりの大変さも少し感じ取れた。関学

に合った、関学らしい世界への道が、優秀

な学生たちによって今拓かれて行く。そ

んな誇らしさと共に、同窓生としては、

古き良き暖かき関学の持ち味は残って

ほしいなあ、と願っています。(英語出来

なかつた僻みでしょうか?)